
学園BASARA 青春信号機story

邪気眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園BASARA 青春信号機story

【Nコード】

N3096BA

【作者名】

邪気眼

【あらすじ】

テストという大魔王に立ち向かうべく、刀（鉛筆）をとった政宗、幸村、慶次の3人の前に立ちはだかる悪魔。その正体とは！？

サブタイトル、『嘘はいつてない』

（前書き）

戦国BASARAの学園パロ。ギャグです。そして処女作です。拙い文章かもしれませんが目をお通ししてもらえたら嬉しいです。

時は、最高不景気の現代、伊達政宗の家。

そこには、伊達政宗、真田幸村、前田慶次というシリーズの主人公とライバル、そして『2』の主人公という一般的に『信号機』と呼ばれる顔ぶれが揃っていた。
「何だかわかんないけど、イラツときたねえ」

慶次が口調は普段のままだが、低い声音で呟いた。
「いいから、Let's studyしろよ」

政宗が呟いた慶次に向かって消しゴムを投げた。
それを慶次が避けると幸村の額に消しゴムが吸い込まれていった。

「ぬおおおお！！某に何故か、二次被害がアアアア！！ウオヤカタサバアアア！！！！」

「謝れよ、慶次」

政宗が何食わぬ顔でそういった。

「いや！？俺のせいだよ！」

「てめーのせいだよ。お前に当たってたなら、こんなことにはなかった」

「コイツ…、DQNだとか暴君だとか、そんなチャチなもんじゃ

ねえ。もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ…」

顔が一瞬ジヨ●ヨ風になったが、直ぐに正統派イケメン顔に戻った。

「慶次殿…某と貴殿が喧嘩して貴殿がかなう訳がないでござるよ…」
幸村が眉間にシワを寄せながら指をポキポキとならしている。

「いや、映画で俺アンタ達より強かったじゃん」

「アレは、アレ。ソレは、ソレでござる。」

「コイツ…ジャイアンだとか（ry」

そもそも、何故彼らがここに一緒にいるかというと、一週間後にテストがある。頭はあまりよろしくない彼らは「教えあったほうが良くな？」という結論になり、今に至るのである。

「漫才やってねーで、さつさとstudy…」

「誰のせいで漫才したと思ってんの」

政宗と慶次が口を開いたが口論にはならず、三人は手を動かし

始めた。

↳数時間後↳

彼らは『戦国BASARA無印』で誰が早くホンダムを倒せるか競っていた。

「てッ！何やってんだ俺ら！？」

慶次が我に返り、ツツコミを続ける。

「つーか、無印に俺出てないし！？」

「出てるでござんす。ほら…前田の門番に…」

「イヤ、それ同姓同名の別人だし！」

「お前らシャラップ。集中できねえだろ、ツて！？俺が鳥になったアアア」

画面には 政宗の討死シーンが映っており、中井ボイスによる鳥になりたい発言が呟かれていた。

「次、某でござる。某」

政宗が渋々と幸村にコントローラを渡した。

「あつ、その次俺ね」

慶次もまた、ゲームという小悪魔に再び取り込まれた。

一週間と数日後 テストが終わり、結果も返ってきたが、三人ともorz↑こんな風になっていた。

「『まあ、俺はEnglishはパーフェクトだし、おまえらとは違うんだよH A H A H A 』」

「政宗殿…」

「独眼竜、「かつこ」つけなくて良いんだ。後、「パーフェクト」って何？」

三人が暗いオーラを出していると明るいオーラが近づいてきた。

「何をしているんだ？三人とも」

「『家康…』」

三人が声のした方を向くと大きい方の徳川家康が笑顔を向けていた。

「うわっ、顔が酷いぞ」 家康が驚いたような声をあげた。

「まあ、酷いフェイスにもなるわな」

政宗が自分自信のテスト結果を見ながら呟いた。

「これはひどい」

家康が3人の結果をそう評価した。そして、いつも太陽のような彼の笑顔がひきつっている。

「お前たち、もしかして勉強してないな？」

「俺…思うんだ。青春の限られた時間の中を仲間と笑わずに過ごす、机とノートに向かうなんて…」

慶次が涙声で喉から絞り出した言葉に政宗と幸村が反応する。

「そうだ…」

「こんなこと…」

「」「間違っている!!!」「」

3人が同時に叫び、言葉が続く。

「そーです某達！」

ザッ

「青春storyを歩む！」

ザッ

「信号機！」

3人がギニョー特選隊のようなポーズを廊下の真ん中、それも昼休みにいきなり叫びながらきめた。

歩いてた生徒などがこっちを見たが直ぐに何事もなかったかのようになり、元の行動に戻った。

細々と『またあの3人か…』という呟きがあつたが多くの人によつてかき消された。

「罷り通りますよ！ユキムラさん、マーサムネさん」

慶次が妙に高い声で屋上に向かう階段の方へ走り去り、政宗と幸村も後に続く。

廊下には家康が1人取り残された。

「……確か次の授業片倉先生だつたな……」

家康は3人の向かった方向に向けて合掌した。

その後3人は極殺モードとなつた片倉先生により、ボロボロの姿で廊下に立たされ、ミカン箱で補習を受けさせられた。

後日、『アホの信号機』という汚名がつけられ、忍ネットワークという謎の情報網で学園中に広まったというのは別の話。

END？

「校長先生殿が鹿と闘っていたら某。頑張れるでござる」

「幸村、アンタ…！」

「オイ、小十郎！何で俺だけバケツ持たなきゃならねェんだよ！」

完

（後書き）

ここまで読んで下さってありがとうございます。
また機会があったらお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3096ba/>

学園BASARA 青春信号機story

2012年1月8日00時49分発行